

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第33号

2013年11月15日発行

*** 目 次 ***

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 1. あびこ型「地産地消」推進協議会胎動期の頃の思い出 | 6. 総務部会紹介 |
| 2. あびこエコ農業 | 7. 行事予定 |
| 3. 農産物放射性検査について | 8. 編集後記 |
| 4. 援農ボランティア情報交換会報告 | |
| 5. 「第10期援農ボランティア養成講座」について | |

第10期養成講座 開校式・座学



発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫

住所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4（直売所内）
（営業日 月・火・木）

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp

URL <http://business4.plala.or.jp/chisan/>（8月1日より変更）

1. あびこ型「地産地消」推進協議会胎動期の頃の思い出

会員（初代会長）遠藤織太郎

プロフィール

当協議会初代会長（H16.1～H21.4）、我孫子市白山在住
元筑波大学農林学系教授、現 NPO 法人手賀沼トラスト理事長

あびこ型「地産地消」推進協議会が設立されてから今年で 10 周年を迎えています。創設当時に関係したものの一人として、誠に感慨一入です。

協議会が正式に発足したのは平成 16 年（2004）2 月ですが、これを溯ること数年間が設立までの胎動期間であった。

1999 年 11 月初旬に私は市農政課の職員と我孫子市農業青壮年会議役員の訪問を受けた。そこで私は「生産者と消費者をつなぐ我孫子の農業」と題した講演と「生産者と消費者によるパネルディスカッション」のコーディネータを依頼された。開催日まで 3 ヶ月しかなく、期待にどう応えるか不安はあったが、私なりに準備し、相談も重ね、話し合いの上でお引き受けすることにした。

発 会 式（平成16年1月24日）



当時の日本農業をみると、新農業基本法が制定・施行（1999）されたばかりで、わが国の農業は環境保全型農業を基本に据え、農業のもつ多面的機能の発揮、安全・安心な農産物の生産と、それに見合う流通の仕組みの再編、自給率の向上、自立農家の育成などが強く打ち出されていた。

一方、我孫子市農業を見ると、農家の減少、後継者不足、担い手の高齢化などが進む一方で、大量生産、大量流通、大量消費のシステム化の流れの中で、これまでの我孫子の農業の特徴が生かせないようになりつつあった。一方で我孫子市は急激な人口増で都市化が進み、このような中で我孫子市の今後の農業振興はどのよう

に進めて行くべきかが関係者の一大課題となっていた。

私は基調講演で問題を投げかけてみることにした。2000年2月27日は寒い日であった。会場の中央学院大学講堂には、一杯になる聴衆が集まっていた。講演は農業の根本（本質）に触れながら、新農業基本法のポイントをお話し、その上で我孫子市農業の現状と特徴を明示し、これからの方向性を提案するものであった。

－ 2 －

すなわち、我孫子市農業は周辺市町村に比べても高い農産物生産機能とアメニティをもっていることを再評価し、これを我孫子らしい都市型農業の構築とまちづくりに位置づけることを強調した。

その上で、我孫子らしい都市型農業は、安全・安心の農産物の生産を基軸として、市民との顔の見える「地産地消」の仕組み（直売所）を軸として展開することを提案した。この仕組みづくりのためには、生産者と消費者（市民）をつなぐ絆づくり、お互いの理解と信頼、食と農を通した共生関係をどうつくり上げていくかにかかっていると呼びかけた。これに成功すれば、我孫子市の農業は市民と生産者、行政がコラボする新しい我孫子型都市農業として発展することになろうと結んだ。

この後、生産者（3人）と消費者（2人）によるパネルディスカッションがあり、その中では、地元「地産地消」を進める直売所をつくることの重要性、生産者と消費者（市民）が本音で話し合う場づくりの大切さ、安全な野菜作りには消費者（市民）全体の理解が必要なことなどが熱っぽく論ぜられた。コーディネーターとしての私は最後に、今日のこの話し合いをこれで終わりとしなくて、あびこ型「地産地消」を具体化するために今後とも生産者と消費者による話し合いを継続してほしい旨提案し幕とした。

この日を契機として、我孫子市における生産者と消費者（市民）の間に「進めよう地元の地産地消」の気運が一気に高まった。しかし、あびこ型「地産地消」推進協議会が設立されるまでには、これから3年の胎動期間が必要であった。

すなわち、この後も「市民とつくる我孫子の農業、あびこ型地産地消を目指して」と題した講演会やシンポジウムの開催、また生産者と市民によるフォーラム等を実施する一方、広く市民の意識動向を知るためのアンケート調査等が精力的に行われた。これらの経過を踏まえて、平成15年（2003）3月から「あびこ型地産地消」の設立推進に向けた農家と市民による共同模索を重ねた。その結果、同年7月に「あびこ型地産地消」を農家と市民が協働実践するための「懇談会並びに設立準備会」が設置された。何回もの討議の末、満場一致であびこ型「地産地消」推進協議会を立ち上げようということになり、その具体策をつくるための世話人が選ばれた。世話人会は農家と市民の代表で構成され、10数回の討議を重ね、具体策を構築していった。もちろん、討議中のこと、また計画案などについては、農家と市民にフィードバックし、意見など集約しながら最終案を作っていった。

設立の目的として掲げたのは次の2点でした。

- ①我孫子市における安全・安心・新鮮農産物の「地産地消」を推進する。
- ②農家と消費者・市民及び市並びに関係機関の協働により、豊かで住みよい「農あるまちづくり」を追求する。

このことを達成するために、当面、農家と市民の主導型で進め、その中で農家と消費者・市民及び市行政の役割分担を確立していくことにした。

かくして、設立総会の日、平成16年（2004）1月24日（土）を迎えた。会場は市民会館の大講堂で開かれ、開会前には聴衆で一杯になっていた。熱気と関心の高さが伝わってきた。

この日のプログラムは、①あびこ型「地産地消」推進協議会の発会式、②フォーラム：あびこ型「地産地消」推進への期待と注文、③アンケートによる意向



調査等であり、協議会の船出を万々なものにしたいとする内容の濃いものであった。

あびこ型「地産地消」推進協議会活動の一步はまさにここからはじまりました。
今私はこの胎動期をなつかしく追憶しています。そして、この10年の歩みに思いをはせ、これからを思うとき、あびこ型「地産地消」推進協議会の持続性と発展を心から祈念致す思いで一杯です。農家と市民が協働する我孫子らしい都市型農業の振興、豊かで住みよい「農あるまちづくり」は、息長く皆んなで推進するものであります。

-3-

2. あびこエコ農業

千葉県・我孫子市資料を基に作成しました。

我孫子市は平成24年3月に「農業振興基本条例」を制定し同条例に基づく部門計画の「あびこエコ農業推進基本計画」を平成25年3月に策定し環境保全型農業を市ぐるみで推進していこうと考えています。

①「あびこ農業推進基本計画」では、「有機JAS農産物」、「ちばエコ農産物」、「特別栽培農産物」、「JAもっと安心農産物」、「エコファーム農産物」及び、今後認証の制度化を予定している「我孫子市独自のエコ農産物」を総称して「あびこエコ農産物」と位置づけ育成・普及することとしています。

②ちばエコ農産物

- 化学合成農薬と化学肥料の使用量を「千葉県慣行栽培基準」の50%以下で栽培した農産物を千葉県が認証をするもの。
- 使用基準として99品目・199作型の化学合成農薬及び化学肥料の上限が平成25年1月30日現在定められている。

土耕栽培	(87品目 180作型)	水稻、普通作物、野菜、果樹
養液栽培	(11品目 18作型)	野菜、果樹
林産物	(1品目 1作型)	

・使用基準（例）

千葉県慣行栽培基準					
野菜	大根	春どり	節減対象農薬10回	化学肥料 15 kg／10アール	3～4月
ちばエコ農業使用基準					
野菜	大根	春どり	農薬 4回	化学肥料 7.5 kg／10アール	3～4月
				堆肥（牛ふん、豚ふん等）	

③我孫子市におけるちばエコ認証の推移（平成20～25年度） （平成25年10月25日現在）

認証年度	生産者数	認証品目数	認証件数	面積（アール）
------	------	-------	------	---------

平成20年度	15	1	15	3,017
平成21年度	22	26	73	3,462
平成22年度	21	22	59	2,907
平成23年度	26	12	38	3,442
平成24年度	17	4	20	2,220
平成25年度	23	5	23	2,903

－ 4 －

3. 農産物放射性検査について

1. 平成25年産米の放射性物質検査について（千葉県ホームページを参考に作成）

千葉県は全国有数の早場米産地であり、安全性が確認されたお米を消費者の皆様に提供するため、米の放射性物質検査を実施しています。

8月7日に公表されたいすみ市から9月13日の市川市の玄米を分析した結果、県内51市町村での検査が全て終了し、県内で米を生産している全市町村で25年産米の出荷・販売ができるようになりました。我孫子市は次の通りです。

検査数 1検体 8月23日公表（米第10報）
 採取日 8月21日
 生産圃場 上沼田（湖北地区）
 放射性セシウム セシウム134 検出せず（3.9未満）、セシウム137 検出せず（4.0未満）
 括弧内の数字は検出限界値です

- ・平成25年は1市町村 1検体
- ・平成23・24年の検査結果等を踏まえて、本県産米の安全性を確認し、適正な流通に資するため、平成25年3月19日に原子力災害本部から示された「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定、解除の考え方」に基づき放射線物質検査を実施しました。

この考えを基に、我孫子市（千葉県市町村）は1点とされました。

- ・【参考】基準値（一般食品）放射性セシウム：100ベクレル/kg

尚我孫子市農政課ホームページでは市内16検体の放射線物質検査を行ったところ各検体放射性セシウムは検出されませんでした。

2. 我孫子市産農産物の放射性物質検査

市では実施した放射性物質検査の結果をホームページに掲載しております、我孫子市のホームページでは「今後も我孫子市産農産物の安全性を確認するため、検査を行い結果をお知らせしていきますので、冷静な対応をお願いいたします。」とのことです。

農産物検査総数 ： 307検体 平成25年4月1日より10月7日まで

4. 援農ボランティア情報交換会報告

編集：広報部会 天谷幸生

8月3日(土)毎年恒例の「情報交換会」が近隣センター「こもれび」にて開催され、花火大会の当日にもかかわらず20名余の会員が参加し、活発な意見が交換された。

この交換会に先立ち、援農ボランティア会員に対し、「現在検討グループが構成され、このグループにて“これまでの10年間の活動を振り返り、今後の10年間を目途とする長期的な活動方針等について”検討されている」旨の説明があり、事前にアンケート用紙が配布された。

このため今回の情報交換会では援農ボランティア活動だけでなくその他の活動についても意見が出され意見交換が行われた。

アンケートと討議の内容は広範で且つ種々の多様な意見が出されたため本会報紙面で全体を取りまとめて

－5－

報告するのは難しいので一部を掲載し、全体については当協議会のホームページ

(<http://business4.plala.or.jp/chisan/>) でご覧ください

1. 情報交換会用資料

21人の会員より寄せられたアンケートの回答を当日の会合用に整理したもの

「これまでの10年」について

- ・現状はボランティアの応募が減少し、一人当たりの活動日数も減少している。援農部会の存続対策が必要な時期になった
- ・私個人としては、我孫子の農家の農業を手伝いたいだけであったが、姿が変わってしまった
- ・高邁な理想を掲げ発足したが、理想は夢と消え、今や発足当時とは全く違う組織体になっている
- ・協議会として、発足当時は農産物販売のための色分けシール等の活動を踏まえてきたが、現在は一部援農ボランティアの活動がメインのようになってきた
- ・社会の変化等で、ボランティア活動の限界にきているのではないか？
- ・私的体験として、高齢化で身体の故障が起こり「援農」活動が困難になりました
- ・受入農家さんは「エコ農業推進のための援農ボランティア活動」という点はしっかり持っていてもらいたい。
- ・援農ボランティアもびっくりするほど減っています。不満やグチも一つ一つ解決していかないと頑張っているボランティアしようという人も集まらないように思います
- ・受入農家として、援農ボランティアさんにはこの10年間大変感謝している
- ・農家の一員としてこれまでは直接的な援農受け入れがメインで、その他の協議会活動が具体的にどのようなことがなされていたかは分からない状態でした
- ・会員同士の横の繋がりが少ないので、「情報交換会」は良いと思う

「これからの10年」

《援農ボランティア活動に関わる事柄》

- ・協議会の運動を十分理解し共に進む考えを持つ農家さんへの派遣を考えるべき
- ・「体力的に軽作業であればまだまだ援農活動をしたい」との声も聴く
- ・現在、農機具の使用は禁止されていますが、草刈り機などの一般的に家庭菜園などで使用しているものについては、安全講習などを受けて、認めるようにしてはどうか
- ・ボランティアを増やすのはどうやら限界にきたように思います。「ある程度」の報酬が得られるシステムにすべきと考える
- ・援農ボランティアへの参加を呼び掛ける対象を、「仕事現役」世代に拡大する必要がある、そのために種々の「利便」を考慮する必要がある
- ・体力等の事情から、1コマ3時間を、2時間とか、活動時間を調節可能にしてはどうか
- ・実費弁償については300円を500円に引き上げる案が以前からペンディングとなっており、これを検討すべき
- ・援農ボランティアの人数確保のため、現状の募集方法の改善/見直しを提案します(ポスター掲出計画等)



情報交換会（8月3日） 近隣センターこもれび

— 6 —

《協議会活動全般、広く農業や食料に関わる事柄》

- ・「あびこエコ農業」シールを復活させるなら、復活させることの意味とシステムの周知徹底に本気で取り組むべき
- ・農家と消費者との情報交換の場が必要
- ・（会員同士で）年に1～2回の日帰りバス旅行などを計画してはどうか？
- ・直売所の見学や講演会等をして欲しい
- ・我孫子市の農業の未来構図を話し合って想定してみても如何か？
- ・これからの10年で最も急がれる対策は、農業後継者が減少していくことを考えると、新たに「市民参加型の農業」の仕組みを創出することだと思う

2. 当日の発言の抜粋（一部）

A. 援農ボランティアより

- ・援農ボランティアの募集の仕方について、もっと工夫することが必要
- ・これからは「ある程度の報酬」がなければ人は集まらないように思う
- ・ボランティア一人一人が身近な人達に声を掛けるという行為が大切
- ・フェイスブックなどは若い人達が気軽に利用しているので、これへのアプローチは効果が期待できる
- ・特定の農家さんと、その農家さんに専属的に作業手伝いする複数のボランティアさんとで「ジョイント・グループ」を作って行うというのがある
- ・藤沢市の例では農家さんと手伝うボランティアさん達の「組み合わせ」を作って固定化して活動するとのことでした
- ・3時間の作業時間を人によっては2時間にする、などという弾力的な管理が出来ないか？

- ・「軽作業」というような仕分けが可能なものかどうか？
- ・ボランティアの側からすれば、作業にそれなりの「変化」のあることは大変重要だと思う
- ・援農ボランティア2年目ですが、農家さんの作業の手助けになり、また自分にも良い気分転換になると感じて続けている。将来の目標として何か「大きな柱」といったものを立てるのが必要では

B. 農家より

- ・ボランティアの皆さんが 現在と将来についてこれほど真剣にいろいろと考えてるとは思ってなく。正直に驚いた
- ・援農ボランティアにより大変助かっているということ以外に、協議会の活動全体については殆んど知識がなかった
- ・実費弁償の300円でいいのかなぁ…と、いつも思います。何回か続けて来てもらえれば、その作業の「コツ」をお教え出来るようにも思う
- ・ボランティアを止められたり、活動を休止されている方々のお気持ちを率直に聞いてみてはどうか？
- ・エコ農業を進めるための作業支援という理解を深めていただければ有り難い
- ・作業の時間について、これからは柔軟に対応して行くことが必要になると思う
- ・実費弁償の額について、去年検討したが500円に引き上げるということを決められなかった。今年、改めて討議してほしい
- ・イベントの開催については、多くの方が未だご存じないのではないかと

5. 「第10期援農ボランティア養成講座」について

援農ボランティア部会 植木

あびこ型「地産地消」推進協議会が発足して、今年は10年目となりました。併せて、援農ボランティア養成講座も10期生を迎える事ができました。

－ 7 －

今年度の募集案内は、「市広報紙」の他に、新聞社からの取材申し込みがあり、9月1日の「朝日新聞“ちば東葛版”」（日曜朝刊）に掲載されました。更に市内180自治会にはチラシ3000枚を郵送し「回覧板」を依頼するなど、情報発信に努めました。

その結果、応募者は男性9名と女性4名の計13名になりました。他に、援農体験者男性2名を含め15名の皆さんが養成講座に参加しました。又、スタート時期は暑さ対策を兼ねて、今までより10日間程遅く行いました。

- ・養成講座は下記の概要で実施しました。

今回から、農家実習を4回(従来は6回)にして、座学講座を1回から2回に増やしました。

9月21日(土) 開講式及び座学①

- ・「我孫子市農業の現状とエコ農業推進についての講義」…農政課 中場氏
- ・「援農ボランティア活動内容の説明等」…三宅ボランティア部会長

28日(土) ①荒井農園〈岡発戸で米、野菜、ハウストマト中心に生産している農家〉

- ・ハウス内のトマトの下葉かき作業を実施。

10月5日(土) ②古川農園〈岡発戸で米、ハウストマト、里芋等生産している農家〉

- ・当日は、雨の為、露地農家の杉浦農園を取りやめて、古川農園でハウスト

マトの下葉かき作業を実施。

12日(土) 座学②

- ・「我孫子のエコ農業について」…農業改良普及員 農政課嘱託 酒井氏
- ・「受入農家の立場から」…農家代表 荒井氏
- ・「あびこ型「地産地消」推進協議会の諸活動について」…米澤協議会会長

19日(土) ③鈴木順一農園〈岡発戸で主に露地野菜やハウストマトなどの生産農家〉で実習

- ・台風の影響で加賀農園を中止し、鈴木順一農園でハウストマト内の地面にマルチシート敷き作業を実施

26日(土) ④田村農園〈新木でイチゴ、トマトを中心に生産している農家〉

- ・実習予定が台風27号の影響で中止しました。

11月2日(土) 閉講式 修了証書授与 → ボランティア登録手続き → 12月から活動予定

9月28日 荒井農園の実習風景



ハウス内で荒井さんから
作業内容の説明を受ける



いよいよトマトの下葉かき
作業開始、皆さん集中



作業合間、お茶など頂き
くつろぐ“ホッと一息”

- ・15名全員が修了し、協議会の援農ボランティア部会員は総勢77名になりました。

全員の皆さんが、一日も早くボランティア活動に慣れるよう、諸先輩方のご協力・ご支援を宜しく願います。又、諸先輩方に置かれては、一回でも多く活動されることを併せてお願い致します。

尚、本講座開催にご協力頂いた受け入れ農家の皆さん、市役所農政課始め関係者の方々には熱く感謝申し上げます。

— 8 —

6. 総務部会紹介



総務部会 白澤

総務部会の実行委員を紹介します。

メンバーは、部会長の白澤幸雄、遠藤五郎、今年度より齋藤佳與子、吉田和子が加わり総勢4名となりました。

実行委員夫々の抱負を紹介します。

遠藤： 定年退職後、我孫子市民として何かお手伝いを出来ないかと考えていた時、援農ボランテ

ィアを紹介されて（第8期）に入会しました。

協議会等のイベント及び総務部実行委員としてお役に立ちたいと思います。

齋藤： 援農ボランティア活動とはどんなことをするのか？と、軽い気持ちで受講し、特に問題意識も持たずに現在に至っております。ただ、土と草の香りが幼少期を思い癒されます。未熟ですが自己の能力の範囲で一生懸命努めます。

吉田： 総務部会は協議会の「縁の下力持ち」のような役割です。毎日渋谷まで通勤しているの
で、なかなか活動が出来ませんが、メンバーに支えられ活動できる時は、骨身を惜しまず
楽しくやっています。

総務部会活動としましては、「あびこん農産物直売所マップ」を、従来の紙ベースを改訂し、ホームページに立ち上げる為、80件の農家さん、インスタ取材に駆け巡ったり、「新緑あびこんフリーマーケット」では、異色のフリーマーケットを催事に取り入れたり、「新年ちびっ子餅つき大会」では、子供さん達に好評のゆるキャラショーを導入したり、「我孫子市農業まつり」では、農政課、共進会のサポート役等々のイベント活動を実行してまいりました。「協議会リーフレット」改訂、更に「地産地消」の啓蒙推進のための「のぼり旗」設置、管理等々の企画、運営活動もしてまいりました。



左より 遠藤さん、齋藤さん、白澤さん、吉田さん

今後は、「地産地消」の普及活動推進のサポート業務並びに会員へのサービス情報提供の推進も併せて企画検討中です。つきましては、現在の 活動範囲を拡げ、活動計画を実行、推進するためにはスタッフのメンバーが不足しております。その為にも、会員の皆様方の協力が是非必要です。

企画等に興味のある方、当部会への参加をお待ちしております。

各部会の委員を募集しております。積極的な参加をお願い致します。

（一）エコ農産物普及推進部会 （二）販路拡大・食育交流部会 （三）援農ボランティア部会
（四）学校給食支援部会 （五）広報部会 （六）総務部会の6部会が活発に活動していますが各部会とも手不足になっております積極的な参加をお待ちしております。

連絡先は表紙のメールアドレス、電話・f a x 番号をご覧ください。

7. 行事予定

- ・地産地消協議会主催の「年末のつどい」が本年始めて行われますのでまだ申し込みをして居らない方も万障お繰り合わせの上ご参



加下さい。申し込みは表紙のメールアドレス、
電話・f a x 番号でお願いします。

- ・行事紹介で未定の箇所はホームページに随時掲載致します。

月 日	内 容	会 場	主管担当部会
11月30日(土) 12月 1日(日)	「市民フェスタ」	アビスタ	広報部会
12月 7日(土)	「年末のつどい」	けやきプラザ内 南近隣センター	地産地消協議会
12月 (未定)	「芋煮会」	あびこん	販路拡大・ 食育交流部会
26年 1月16日(土)	「ちびっこ餅つき大会」	あびこん	地産地消協議会
2月 (未定)	「あびこん味噌づくり教室」	あびこん	販路拡大・ 食育交流部会
2月15日(土) 16日(日)	「第38回消費生活展 全体テーマ」 “ちょっとした工夫で豊かなくらし”	我孫子市民プラザ	広報部会
4月26日(土)	「新緑イベント」	あびこん	総務部会
5月17日(土)	「総会」	我孫子市民プラザ	総務部会

8. 編集後記

今年の稲刈りも終わり、農閑期に入るのは昔の話しでの我孫子の農家はハウス栽培もあり一年中農繁期が続いている。台風26号の豪雨と強風は日本中に被害を残し、孫子市内でも浸水被害が発生した。台風27号では我孫子市に避難所が設置されたが利用されずにすんだ。被害に遭われた方々にはお見舞い申し上げます。

情報交換会の意見に見られたように、援農ボランティアも10年が経ち実費弁償等を始め再検討をされて良い時期に来たのかもしれない。